



学校便り

佐渡市立金井小学校 令和7年2月27日 第11号

ホームページ <http://kanai-es.sado.ed.jp> E-mail : kanai-es@sado.ed.jp

健康優良児(けんこうゆうりょうじ)

校長 藤井 衛

「スマホ脳過労」「視力低下」「体力過去最低」といったニュースがありました。コンピュータは生活を便利にしてくれましたが、体には悪い影響も出ているようです。金井小学校のみなさんは大丈夫(だいじょうぶ)かな、ちょっと心配しています。

かつて「健康優良児」と呼ばれる小学生がいました。私が、小学生だったころは、毎年学校から代表が選ばれていました。私は、今でこそ身長が185cm、体重75kgまで成長できましたが、小学生のころは、身長140cm、体重30kgそこそこでした。栄養状態もよくなって、ガリガリの子どもでした。健康優良児に選ばれた人をうらやましいと思っていました。

なぜ、健康優良児というものがあつたのでしょうか？調べてみました。

健康優良児とは、身長と体重が平均以上で、学習成績と運動能力ともに優れ、性格明朗な少年として、新聞社・文部省・都道府県教育委員会が合同で表彰した者である。上記条件を満たす小学校6年生の男女1名を各学校が推薦し、陸上競技場で徒競走などの運動能力をテストし、医師の健康診断と教師の面接を経て選定した。

1930年に「日本一の桃太郎を探す」として開始し、戦前と戦中は強い兵隊の育成、戦後は食糧事情の改善指標として選出された。都道府県予選を経て男女1名ずつ「日本一」を決定し、毎年、文化の日に新聞で発表された。

優越感や劣等感を招くと批判する意見が目立ち、表彰は1978年に廃止された。

なるほど、私が1977年に小学校6年生だったので、間もなく無くなった表彰制度だったことが分かりました。

当校の沿革史を見ると、昭和23年、新潟県で1位と2位を金井小学校の児童が獲得しています。また、昭和40年には、金井吉井小学校が「新潟県一健康優良校」として県知事賞を受賞しています。このことは、食料が不足していた戦時中でも、金井の保護者は、子どもにしっかりと食べ物を与え、健康に育てる努力していたことが想像できます。

健康な心と体があつてこそ、勉強もスポーツもできるようになるのです。現代は、栄養状態も改善されましたが、食べ物が豊かになり過ぎたことやスマホやゲーム機の普及が不健康につながっている面もあります。感染症も落ち着きました。全員が健康優良児で心も体も元気で過ごせる金井小学校になるように願っています。

